



NO.

いちょう

発行所

待乳山 本龍院

〒111 東京都台東区浅草7-4-1

-0032 TEL. 03(3874)2030

FAX. 03(3874)5280

浮世絵展

住職 平田真純

私の子供時代、某社のお茶漬けふりかけには、広重の東海道五十三次の浮世絵カードが一枚ずつオマケでついていました。まだ歴史や芸術などに興味があつたわけではありませんが、なぜか「全部揃えたいな」と思っていた記憶があります。そのうち忘れてしまいました。が、数十年後に待乳山で、浮世絵展を催すことになる因縁のひとつとなったかもしれません。

平成十三年より二年毎に開催しております「浮世絵展」も、今年の開催で四回目を迎えます。今回は待乳山とその周辺地域に関連する浮世絵や古写真の展示を中心に、待乳山を挟む隅田川と山谷堀の上流にもスポットを当て、現代の東京では感じづらい、自然の営みと江戸の町の共栄を、少しでも表現できればと思っています。九月十四日より十月六日まで開催いたします。

江戸時代の浮世絵を鑑賞すると、大都会江戸であっても、四季の変化を通じた日本の情緒や、海川山などの地形の変化の味わい、また当時の人々の生活や習慣への共鳴など、さまざまなことを感じる事ができます。その感性で今の東京を流れる河川などを眺めるこ

とができれば、さまざまな気づきに出会えるかもしれません。

我々の祖先は、日々の生活の中で、目の前の自然から、いろいろなことに気づき、そして学んできました。

やおよろず

八百万の神といわれるように、あらゆるものに神が宿るといふ発見はその賜物です。そしてあらゆるものに仏が宿るといふ大乘仏教の確固たる思想が後ろ盾となり、我々日本人の精神が確立されていったのではないのでしょうか。

これは個人的な感覚ですが、概して日本人の哲学は、内省的に自己を掘り下げていくよりも、事象からの気づきを重視しているのではないのでしょうか。もちろん自己を見つめるのも大切な仏道修行であり、周りの状況変化に流されるだけでは真の精神とは言えませんが、本来、自己と他者・他物をバランスよく見つめるのが私たちの理想とするところでありましょう。

浮世絵時代の優雅な風景とは打って変わって、昨今の地球上は、否、宇宙空間にまで、解決不能と思われるような問題で満ち溢れているようです。日本人として歴史を振り返り、神仏に教えを乞うのも大切なことだと思います。

待乳山便り

畑中講 報告

五月二十六日、畑中講の
大般若法要を執り行いました。
今年で畑中講は四十五
回目を迎えました。

講元の畑中秀俊さんは二
代目になりますが、今もな
お多くのお申込みがあり、
今年もおよそ百名のお申込
みがありました。

法要終了後は、講に参加された皆様と住職で記念
撮影を行い、大広間にて歓談されました。

御奉納

落合史明様より、本堂脇の駐車
場の門のカーブミラーをご奉納、
設置をしていただきました。

より安全に車の出入りができ
るようになりました。

ありがとうございます。

お宮参り

三月七日、大関紗世ちゃんのお宮
参りを行い、行者様よりご加護を授
かりました。尊天様のご加護で健や
かに成長されることをお祈りしてお
ります。



七月御縁日大法要 行事紹介

出世観音供養会

七月十七日(水) 午前十一時

講金 一、五〇〇円

七月十七日、
出世観音供養会
を執り行いま
す。

昭和九年、境
内周辺の擁壁工
事を行った際、
土中より観音様
のご尊首が現れました。



その後当時の多数のご信徒様の協力で、その素晴
らしいご尊首にふさわしいご尊体が作られました。
以来現在に至るまで多くのご信徒の方を救って
くださっております。

このような歴史を持つ観音様とのご縁を深め、皆
様自身も観音様のご尊首のような素晴らしい才能や
チャンスを得ていただき、その上でご尊体をお造り
するかなのような地道な信仰、精進を辛抱強く続け
いただければ、その才能、チャンスにふさわしい出
世が待っていることでしょう。

その上で観音様のような心をもって徳を積んでい
ただければ尚の事素晴らしいご利益をいただけるで
しょう。

常香講

七月二十日(土) 午前十一時

講金 一、五〇〇円

七月二十日、常香講を執り行います。
信仰において身を清めるといふ事はあらゆる面で
重要です。

身を清めることは即ち心を清めることに繋がり、
それにより平常心を生み、より充実した信仰につな
げることができます。

浴油祈禱の際にも、行者はまず沐浴をして体を清
め清浄な衣をまとい、本堂に入り門前において香湯
を灌ぎ、象香炉の煙で足もとから清めます。登壇後
の作法においても、塗香をまとい香炉に沈香をくべ
ることからはじめ、あらゆる作法で心身を清めてか
ら実際のご祈禱を始めます。

このようにお勤めでは心身を清めるといふ行為を
非常に大切にしており、その中でもお香を用いるこ
とがとりわけ多くなっております。

信仰には欠かせないこのお香を常香講ではお供え
し、祈禱をいたします。

常香講にご参加いただき、身を清めることの大切
さを改めて意識し日々の信仰の基礎としていただ
ければと思います。



象香炉

山谷堀の今昔

九月に開催される浮世絵展、今回のテーマの一つである山谷堀についてお話をします。

山谷堀は石神井川から王子で分かれ、音無川を通り隅田川に流れる水路でした。現在は暗渠となり埋め立てられ山谷堀公園となっております。



現在の今戸橋から見た山谷堀

山谷堀には九つの橋があり、隅田川寄りから、今戸橋、聖天橋、吉野橋、正法寺橋、山谷堀橋、紙洗橋、地方新橋、地方橋、日本堤橋と続いておりました。現在は親柱のみ残っております。今回から数回に分けて、下流から上流へ案内したいと思います。

江戸時代は待乳山でお参りし、天狗坂を下つ



東京名勝図絵待乳山

ていくと最初の橋、今戸橋に出ました。下には船着き場があり、猪牙舟などのターミナルとなっております。

当時は「今戸橋上より下を人通る」といわれるほど舟の行き来が盛んであったようです。

『真乳沈んで梢乗り込む今戸はし』と江戸時代の粹人、英一蝶が吉原に遊びに行くときに作った小歌は有名です。

今戸橋界隈は茶屋が並び、賑わっております。中でも一番大きかったのは、今戸橋を渡つてすぐ

の有明楼です。

有明楼は女店主お菊のお店で、広重の「待乳山夜景」に描かれる女性と推察されています。

彼女の夫の歌舞伎役者六代目澤村宗十郎のひ孫に当たる六代目澤村田之助さんは、当山とのご縁が深く、当山昭和四十年発行の『歓喜第八号』に寄稿しております。

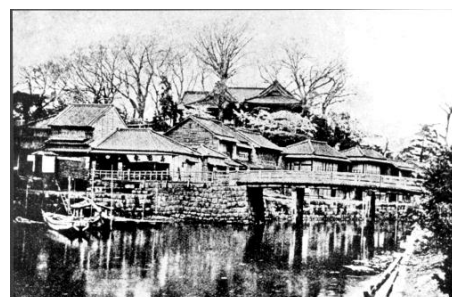
「御本堂に上がり、ただなんとなく手を合わせただけの私でしたが、帰り際に丘の上から隅田川の方を眺めますと私の祖父七代目沢村宗十郎（六代目の養子）が長い事住んでいたという屋敷跡（現



有明楼之景



待乳山夜景



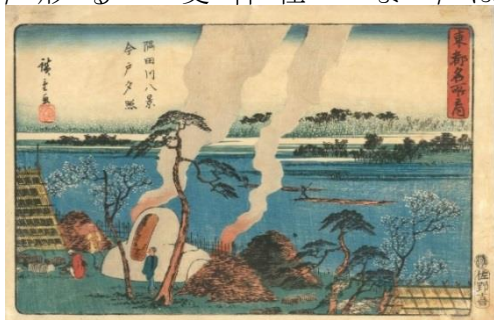
戦前の今戸橋と待乳山聖天

様に思われてなりません。」

きつとお菊さんも夫宗十郎と共に参りしていただいたでしょう。

また、今戸橋周辺では広重の浮世絵のように今戸焼生産が盛んでありました。

多くあった窯元も現在は「今戸焼 白井」一軒のみとなっております。歴史を継承されております。当院でお授けしている貯金箱や正月の干支人形も「今戸焼 白井」の今戸焼です。



浮世絵展―待乳山・隅田川・山谷堀―

令和元年九月十四日〜十月四日 入場無料

七月行事予定

御縁日大法要

出世観音供養会

七月十七日(水) 午前十一時

講金 一、五〇〇円也

参道の出世観音様をご供養いたし、特に学業・芸事・開運・出世をご祈願します。

常香講大法要

七月二十日(土)

午前十二時

講金 一、五〇〇円也

ご祈祷に用いるお香を供養いたします。

朝まいり会

七月一日〜七日

午前八時から八時半

会費 五〇〇円也

都合のよい日に、ご参加くださっても結構です。

日曜勤行

七月十四日(日)

午前九時

参加費 無料

初心の方も気軽に参加いただけるおつとめの会です。

写経の会

七月十四日(日)

午前十時/午後一時 会費

五〇〇円也

心を落ち着かせて写経することで、日常を離れ、自分を見つめ直しましょう。

午後は空いていますので、落ち着いて写経が行えます。

合同大般若法要

七月二十五日(木)

午前十一時

法要料 五、〇〇〇円也

心願が成就し、より一層の御加護を頂くために、皆さんと一緒に上げる御礼の法要です。

八月の行事 御縁日大法要

灯明講

八月二十日(火)

午前十一時

講金 一、五〇〇円也

七月の坐禅の会は隅田川花火大会と重なるため中止となります。

祈祷のご案内

祈祷料

聖天様独特の供養法である

別座祈祷 壺万円(一週間)

浴油供は、密教の中で最も深

浴油祈祷 三千五百円(一週間)

秘の法とされています。この

華水供 五百円(一日)

供養法は聖天様のお力がより

一層高められ、私どもが不可

法要案内

能と思われるような願い事

当山では予約にて法要を

も、尊天様の不思議方便の

行っております。寺務所

働きを得て、必ず成就させて

てお問い合わせください。

頂けるのであります。

百味供養 法要料 八万円

当山ではこの浴油祈祷を、

沢山のお供物をお供え

毎朝開堂と同時に厳修して

し、出仕の僧侶が声明をお

ります。寺務所にて受け付け

唱えることで、尊天さま

ておりますので、お名前とお

に御礼の供養をいたします。

願いの内容、祈祷期間をお伝

大般若法要 法要料 五万円

え下さい。

所願成就御礼の法要とし

またご遠方の方やお急ぎの

て、大般若経六百巻を転読

方は、お電話やお手紙でも受

いたします。

け付けております。どうぞお

自動車加持 法要料 壺万円

申込みください。

当院にてお車のお加持をい

たします。当日はお車にて

お越しください。

皆様からのご質問、お知りになりたいことを受け付けております。ご意見やご質問は ityou@matsuchiyama.jp までメールをお送りください。